

ひとネットワーク



△新しい富士の玄関口は田子浦地区の玄関ともなります（急ピッチで進む新幹線駅工事）



住民相互の連携を深め あいさつで始まる きれいなまち

田子浦

このコーナーでは、公民館単位に各地区の話題や人物を紹介し、あなたの地区でのちょっとしたこぼれ話、出来事、ご意見などありましたらご連絡ください。7月は富士駅南、8月は富士駅北地区です。連絡先…市内永田町1-100 市広報広聴課 ☎51-0123 内線2822、締め切りは毎月15日です。

田子浦地区は、田子の浦港西側に広がる海浜地区です。昔は富士川の河原で、ところどころの微高地に集落があったのと（現在の島という地名に残る）海浜の小高い丘に集落が点在していたにすぎませんでした。万葉の昔から親しまれている富士山を背に松原が続く、風光明媚なこの地は、今も本市の海浜地域として市民の憩いの場となっています。

しかし、昭和三十六年の田子の浦港の開港、高波被害に備えるための堤防の築堤、砂浜流出のためのテトラポットの敷設等、浜辺の様子は大きく変わり、昔の面影を見出すことはできません。

田子浦地区は、昔ながらの集落柳島地域を中心に、浜通りの住宅密集地とともに、田園地帯として発展してきました。しかし、国道一号バイパスの開通を初めとする交通網の発達により、最近では、産業の後背地としてベッドタウン化が進み、さらに、新幹線駅の開駅を控え、大きな変貌が見込まれる地区です。



晩酌で家族の和

宮島新田 小井出さん一家



田子浦地区の活動目標の一つが、「あいさつのまち 田子浦」です。町内会長としてみずからこれを実践し、家族のコミュニケーションのすばらしい小井出茂さん一家におじゃましました。

小井出さん一家は、世帯主の茂さん、妻の八重さん、息子の邦夫さん、邦夫さんの妻の辰江さん、孫の昌代さん、真哉さんの六人家族です。

「我が家のモットーは和」とい

う茂さん。でも孫の昌代さんに言わせれば、「友達のような家族。友達の輪だわ」とのこと。とにかくコミュニケーションのよい家族です。

朝食のとき、昌代さんと真哉君は、その日の予定を茂さんに必ず話していきます。

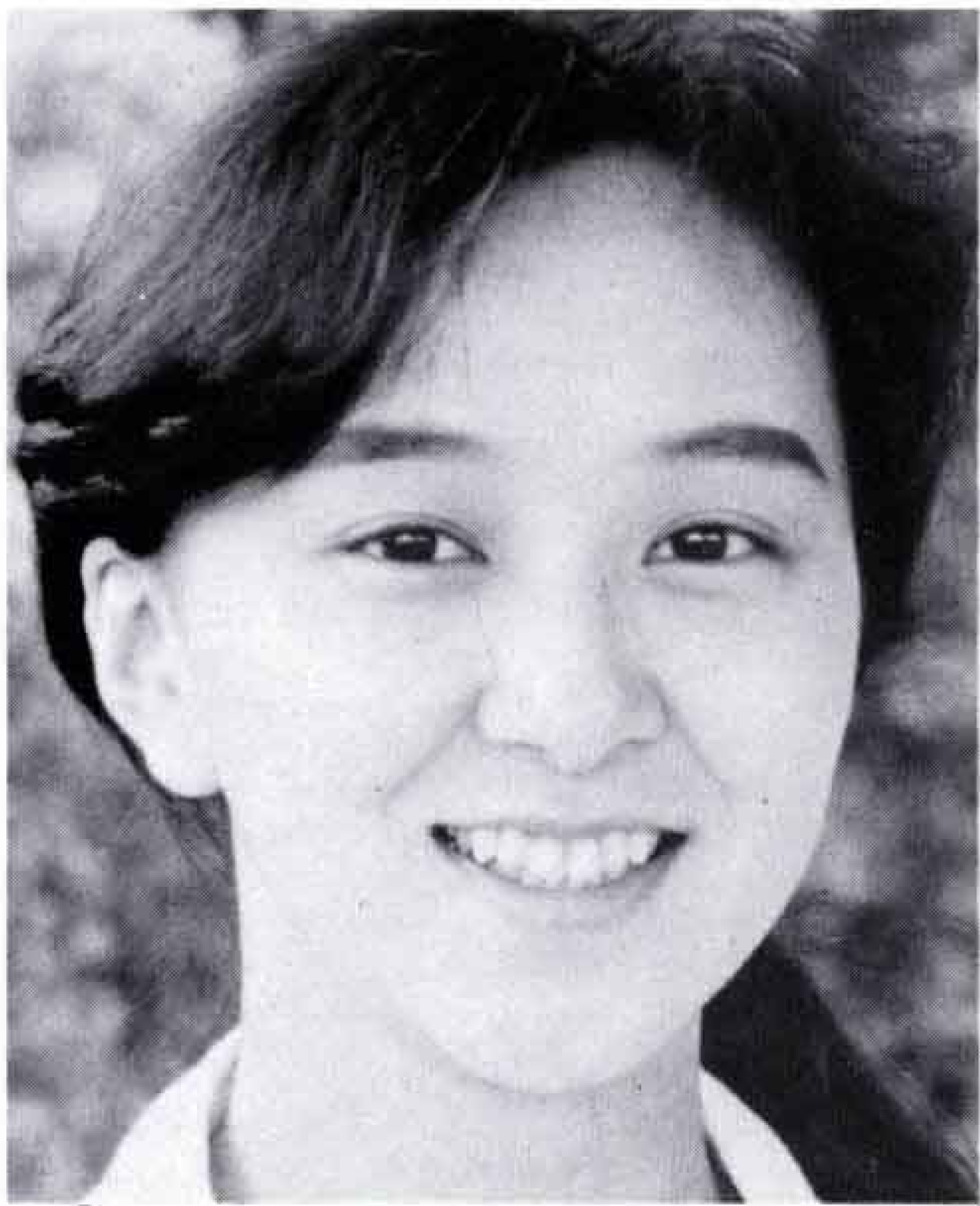
そして、夕食はできるだけ家族全員でとり、みんなその日の出来事を話し合います。

女性陣も加わって毎日欠かさず適度な晩酌をするので、大変にぎやかです。夕食時間は、二時間と聞きました。

「晩酌は家族のコミュニケーションと、ストレスの解消になります。そのせいか、病気がありません。酒屋さんへの支払い額を人様に言えないのが玉にきずですけどね」と八重さんは笑う。小井出家の和の秘密はどうやら晩酌のようでした。



◀前列右から八重さん、茂さん、邦夫さん、後列右から真哉さん、昌代さん、辰江さん



初代ミス茶娘
小林孝子さん
久沢西 (22歳)

全国有数の高品質茶になりつつある「富士のやぶ北茶」のイメージアップは間違いありません。



「とても光栄に思っています。とさわやかな笑顔がまぶしい小林さん。身長は百六十六センチメートル、体重は五十キログラムと、とてもスマートです。

職業は栄養士。現在、比奈の児童養護施設誠信少年少女の家に勤めていて、職場では、家庭の味を知らない入園児に「手づくりの味を教えたい」と張り切っています。審査の翌日、「お姉さん、やったね」と子供たちも祝ってくれました。

チャームポイントは自称「おでこ」、お茶・お花を習うかたわらジャズダンス・テニス・ローラースケートにも汗を流すという行動派です。

お茶摘みなどの経験はありませんが、家ではもっぱら「コーヒーにキーキより、お茶におせんべい」といいます。「若い人にもっとお茶を飲んでもらえるようがんばります」と頼もしい。

地域スポーツといえば、バレーボール・ソフトボールという枠を乗り越え、田子浦地区に男女混合バレーやインディアカを取り入れたのが味岡さん。



味岡亮二さん
中丸

スポーツで「コミュニケーション」



豊田生子さん
下川成

子供たちに感動を与えたい

ニックネームは「せいこちゃん」。並みいるオジサンどもを苦にせず、社会教育推進会の総務として活躍しています。



尾鷲文夫さん
川成島

他人の「子」にも注意を

昭和四十年の発足以来、二十一年間にわたり交通安全指導員を務める尾鷲さん。この間、市内で最初にリスさんクラブ（幼児の交通安全クラブ）を発足させるなど交通安全に人一倍心血を注ぐ。若いお母さん方に「自分の子供だけでなく他人の子供にも注意を与えてほしい」と注文。交通事故撲滅を願うベテラン指導員さんです。

あの人…この人…こんなこと



渡辺高章さん
小須 (50歳)

我がまちを語る

田子浦地区は、旭化成の進出と田子の浦港の開港により、地区の様相が一変しました。時代の流れもあつたでしょうが、農業中心からサラリーマン世帯層がふえ、都市化現象が進んできました。

口は悪いがお人よし

同時に、田子浦地区独特の風習も薄らいできたのは、ちょっと寂しい気がします。しかし、昔ながらの田子浦人気質といわれる「竹を割ったような性格」「口は悪いがお人よし」の精神はまだ健在です。この地区は、県外出身者が多いのですが、この人たちも地域の人と解け合い、よい意味で田子浦の風土になじんできています。

